

## 第 1 回宗像市行財政改革推進委員会議事録

|    |  |    |               |
|----|--|----|---------------|
| 日時 | 令和元年 7 月 26 日（金） 10 時～ 12 時  | 会場 | 宗像市役所第 2 委員会室 |
| 委員 | ■安部 武彦    ■今川 泰志    ■實原 隆志    ■下田 真也<br>■常富 公一    ■広田 葉子    ■山下 永子                      (五十音順、敬称略) |    |               |
| 市  | ■長谷川経営企画部長    ■中村経営企画課長<br>(事務局：経営企画課)    ■溝口    ■小森    ■恵下    ■平山<br>(財政課)    ■寺田                 |    |               |

### 1 部長あいさつ

### 2 委嘱状交付

### 3 自己紹介

### 4 会長及び副会長の選任

立候補及び推薦等なし。

事務局からの提案により、会長に下田委員、副会長に今川委員を選出。

### 5 諮問

### 6 今年度の委員会スケジュールと進め方について

今年度の行財政改革推進委員会は、全 4 回を予定。

前回までの第 3 次までの策定の進め方としては、大綱を策定した後にアクションプランを策定したが、今回はより実効性のある計画を策定するため、大綱とアクションプランを同時並行で策定していく。

### 7 協議事項

#### (1) 議事録の作成方法について

【事務局】議事録の作成方法については、「宗像市市民参画協働及びコミュニティ活動の推進に関する条例施行規則」により、「全文筆記」、「発言者の発言ごとの要点筆記」、「会議内容の要点筆記」の 3 種類の作成方法がある。

本委員会の議事録については、発言者を特定しない「会議内容の要点筆記」で市のホームページに公開したいと思うが良いか。

【委員】異議なし。

(2) 第3次行財政改革アクションプラン平成30年度実施結果について

【事務局】第3次行財政改革アクションプランの30年度実施結果について、(資料1)に基づき説明。

【委員】全体的に金額面では良い結果が出ているが、効果目標がほとんど変わっていない。このような計画においては、適正な目標を立てることが重要であり、計画策定当初から数年が経過しているため、その後の計画の進捗も加味して、目標を立てるべきである。

また、達成度の考え方において、目標金額については、その金額に対する達成度が100%を超えることは理解できるが、計画内容についての達成度については100%を限度とした方が良いのではないか。

【事務局】効果目標については、計画を進める中で目標変えているものもあるが、目標を大きく下回っているものでも、目標額を変えずにそのまま進めているものもあるので、今後、第4次のアクションプランを推進していく上でも、適正な目標額への変更の視点を持って対応していく。

また、達成度については、金額目標に対する達成度を設定する方が分かりやすいのではと設定していたが、金額目標としては達成していても、内容自体が乏しいものも達成となるなど課題はあると認識している。第4次アクションプランの達成度を設定してく中で、ご意見を反映していく。

【委員】上手くいったプランもたくさんあるという印象だが、一方で市民の方の負担が増えるようなプランも含まれているため、負担が重くなりすぎないように考える必要がある。また、市の職員の負担についても同様に考えていただきたい。市の財政が良くなっても、現場の職員が疲弊してしまっては元も子もない。

【事務局】市民の方の負担については、「公共施設等の使用料の見直し」が特に関係するプランであるが、2019年4月に公共施設の使用料を引き上げている。市民の方への負担を強いる形にはなるが、公共サービスを継続していくためにも、一定程度の負担をお願いする必要があるため、今後も周辺自治体の使用料等のバランスも見ながら実施していく必要があると考えている。

また、職員の負担という点においては、宗像市は職員数が全国でも非常に少ないということもあり、おっしゃるとおり職員の負担は増加している。その点も踏まえ、第4次の行財政改革アクションプランの中には、働き方改革をどう進めていくのかという視点も含め、アクションプランを策定していく。

【委員】効果額の算出の仕方について、算出方法については整理が必要ではないか。例えば、ふるさと納税の寄付による効果額については、寄付額がそのまま効果額ではなく、本来ふるさと納税制度がなければ宗像市に収められている納税額との差額を効果額とするなど、実質の効果を見ていく必要がある。

【事務局】おっしゃるとおり実質的な効果を見ていく必要はある。第4次アクションプランを進める中でも、検討していく。

【委員】「広告料の獲得」、「新たな資金調達の検討」において、なかなか効果が出ていないが、広告料を配布物に限っているところや入り口を狭めているなど、いくつか要因がある。その要因をしっかりと調べて取り組むべきである。また、根本的に宗像市の人口規模で、単独で広告料を獲得することが難しいのであれば、近隣の自治体と連携して行うなど、広域的な視点も検討した方がよい。

【事務局】広告料の獲得については、配布物という視点にとらわれず、視野を広げて検討していく。広域的な取り組みについては、広域連携による経費の削減の視点はもっていたものの、広域連携による資金調達の視点はなかったため、今後のアイデアとして参考にさせていただく。

【委員】評価の方法について、本計画の達成度は最終的な結果での指標となっているが、プロセスの指標というのが必要なのではないか。本当はやるべきことができていないにもかかわらず運よく達成できたという場合や、逆に一生懸命に計画したことを全てやったけれども、他の外部要因によりできなかったというようなケースもある。PDCAの考え方を含め、第4次の計画の中では検討いただきたい。

【事務局】おっしゃるとおり、金額による達成度のみの指標としているため、プロセスをどう評価するかが非常に難しい計画となっている。第4次の計画の中では金額の評価とプロセスの評価が分かる形を検討していく。

### (3) 第4次行財政改革大綱の策定方針(案)について(資料2)

【事務局】第4次行財政改革大綱の策定方針(案)について、(資料2)、(参考資料3～5)に基づき説明。参考資料3については財政課説明。

【委員】「従来のやり方の徹底」という視点と、「新たな改革領域の挑戦」の項目は順番を逆にすべきでないか。「新たな改革領域の挑戦」がなければ、「従来のやり方の徹底」では限界を感じる、「新たな改革領域の挑戦」を優先した方がよいと思う。

【事務局】 ご意見を踏まえ、精査する。

【委員】 策定方針はよくまとまっているが、策定の上では、長期的な宗像市の成長の視点を含めてほしい。市民には一時的な負担があっても、長期的に見ればメリットがあるというようなものがあってもよい。

【事務局】 ご指摘のとおり、行財政改革で絞っていただくだけではなく、次の成長について投資をしていくような視点も非常に重要になっていると考えている。たくさんの方に住んでいただけるような定住化推進の取り組みや、企業誘致の取り組み、あるいは地域の賑わい創出の取り組みはその1つであると思っている。いただいたご意見を踏まえ、計画を策定していく。

【委員】 市職員の働き方改革という問題もあるが、市役所以外でも人手不足はやはり深刻な状況があり、市職員が地域に貢献する形で副業をできるような制度を考えてもいいのではないかと。今の学生の中には、定型化された仕事だけでなく、地域でカフェを営みコミュニティの形成を図るなど様々な形で地域に貢献する仕事をしたいと望む学生が増えている。宗像市の人口規模であれば、そのような働き方のモデルとするには理想的と思うので、意見させていただきたい。

【事務局】 第4次アクションプラン中で、ワークライフバランス推進や、職員の能力向上に関する取り組みというものを含めているが、市役所の仕事だけでなく地域に貢献するという視点で副業についても検討してみても良いかと思う。行財政改革の視点だけでなく、どのような場で検討すべきかも含めて考えていく。

【委員】 第4次行財政改革大綱の上位計画となるかと思うが、第2次総合計画の関係をもう少しお聞かせいただきたい。

【事務局】 関係としては、第2次総合計画があらゆる計画の中での上位という位置づけである。市の政策を進めていくに当たっての根幹であり、平成27年からの10年間の基本構想と、5年ごとに前期後期で分けて定める、基本計画がある。その中で、今回策定を進めている行財政改革大綱については個別の計画というような位置づけになるが、行財政改革に関する一番大きな指針ということになる。

【委員】 総合計画が上位にあるのであれば、我々委員がその計画と見比べながら、行財政改革大綱の策定を進めて行くというステップが必要ではないか。

【事務局】ご指摘のとおり、総合計画の中で行財政改革に関する部分もあり、またそれぞれの個別の政策も総合計画に記載されているものであるため、行財政改革のプランを練っていく上でもその関係性は見えた方が良くと思う。現在総合計画の後期基本計画を策定中ではあるが、関連部分の資料を共有したいと思うので、今後手配する。

【委員】基本方針を3つ掲げてあるが、経費を削減できる取り組みという視点と職員の元気が出る取り組みという視点とあるように思うが、それをどちらの視点でみるかで各取り組みがどの方針に含まれるかが変わるように思う。今後策定を進める上で整理されると良い。

【事務局】確かに2つの視点があるかと思う。個別のアクションプランの具体的な効果額やプロセスを検討する上で、どの分類に分けるべきかという点も考えながら進めていきたい。

#### (4) 第4次行財政改革アクションプラン（案）について（資料3）

【事務局】第4次行財政改アクションプラン（案）について、（資料3）に基づき、1つ目の取り組み分類「生産性を高め活力ある組織へ」について説明。

【委員】市民としては、「窓口業務の民間委託」については、個人情報に関係などに不安がある。窓口業務が前提となっている点は、個人情報の不安があるので、ご検討いただきたい。

【事務局】現在、第3次アクションプランの中でも進めているプランだが、現在検討している業務は市民の方の窓口ではないので、そのあたりは少し書きぶりを検討する。また、窓口に来られて手続きをしていただくこと自体が市民の方の負担になっているとも考えているため、オンラインでの手続きなどICT化を進めるなどの検討も進めていく。

【委員】「働き方改革の推進」の1つ目のプランについては、プラン名と内容が逆なのではないか。マイナンバー制度の活用の推進といった内容がプラン名で、内容としてコンビニエンスストアにおける証明書の交付など具体的な内容が来るべきである。また、2つ目の「ワークライフバランスの推進」についても、在宅勤務とかテレワークだとか具体的な内容を盛り込んで、その実現に取り組むとした方がいい。先ほど意見した副業に関する取り組みもこの分類の中で検討いただきたい。

【事務局】1つ目のプランについては、ご意見のとおり修正する。また、2つ目の「ワークライフバランスの推進」についても、具体的な内容が見えた方が、取り組みが明確となるため、今後詰めていく中で検討していく。

【事務局】第4次行財政改アクションプラン（案）について、（資料3）に基づき、2つ目の取り組み分類「行政サービスの効率化と質的向上」について説明。

【委員】「見直し」という言葉が出てくるが、「見直し」というと削減というイメージしか出てこない。例えば、「公共料金の見直し」などについて、この場合の「見直し」は値上げだろうというイメージになる。もう少し発展的な言葉がないか検討いただきたい。

【事務局】単に削減するのではなく、無駄を省いて、より質を高めていきたいという気持ちがある。そういったことがしっかり伝わるような言葉に修正していく。

【事務局】第4次行財政改アクションプラン（案）について、（資料3）に基づき、3つ目の取り組み分類について説明。

【委員】2点ほどあるが、1つは「税外収入の確保」の関係で、クラウドファンディングや広告料というお話があったが、これがくれぐれも営業ノルマにならないようにしていただきたい。パワハラなどの温床となるため、しっかりと現実を見据え無理のない目標設定をしていただきたい。もう1つは、中学校の適正配置の点において、小中学校の適正配置や統廃合という項目があるが、別で挙がっている定住化推進や企業誘致と逆行するプランとならないか懸念する。学校や市営住宅関係の集約という話は、市民に非常に大きな負担を課すことになる。コストを削減することによる、リスクがあるはずなので、その点もしっかりと念頭において計画をしていただきたい。

【委員】学校の関係については、対象となる市民も多く、影響が非常に大きいため、難しい取り組みではあるが、効果は大きい部分である。効果が出ることで、企業誘致や人口増の様々な取り組みにも発展できると思うため、リスクを考えつつ、しっかりと計画を進めてほしい。

【事務局】おっしゃるように「公共施設のあり方の検討」や「小中学校の適正配置の検討」については、大きな取り組みであり、この5年間で効果が出せるのかということ非常に難しいと思っている。ただ、検討のテーブルに上げるということがまず非常に大事なことだと思っているため、第4次以降も見据えて取り組んでいきたいと思っている。

【委員】「公共施設等の使用料の見直し」については、民間ではA I等を使って、空き状況によって価格を変動させるなどの取り組みを行っている。公共施設についても一律に値上げをするのではなく、利用状況等を加味して行う視点があってもよいのではないか。

【事務局】おっしゃるとおり、ニーズに合わせた料金設定や、前日まで空きがあれば安く提供などの視点はあっても良い。計画を進める上で検討していく。

【委員】定住推進について、宗像市は鹿児島本線の沿線にあり、非常に恵まれた立地にあると思う。強みを活かした形でしっかりと定住の推進を進めていただきたい。

## 8 その他